

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日		美根 宏史		〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日		鈴木 雅文		〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		ミュージシャン学科		平成17(2005)年度		-	平成26(2014)年度	
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	主な学修成果 音楽業界で就業可能な技術を習得する。 令和5年度中退率 3.0%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,760 単位時間	480 単位時間	120 単位時間	1,160 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
80 人	70 人		2 人		3 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		31 人						
	■就職希望者数(D)		11 人						
	■就職者数(E)		8 人						
	■地元就職者数(F)		8 人						
	■就職率(E/D)		73 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/G)		26 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	ミュージシャンとしてのアーティスト活動等 (令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: ○○○○ 受審年月: ○年○月 評価結果を掲載したホームページURL ○○○○								
当該学科のホームページURL	○○○○○								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,760 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				660 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,760 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				660 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				- 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				- 単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				- 単位				
	うち必修授業時数				- 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				- 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				- 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				- 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人				
	計				4 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
白藤 浩史	教務部副主任		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月12日 14:00～15:30

第2回 令和6年3月28日 14:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見:エンタテインメント業界の現在の動向を踏まえ、学内でオーディションを行う際に参加率を向上させるためにはより具体的な動機づけが必要になると考えられる。

活用状況:これまでにレーベルやプロダクションと連携して実施した学内オーディションの結果と、その後の進捗について精査し、オーディションへの取り組みに対する具体的な成果を提示できるように準備を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・講師派遣における学内授業の実施・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン
DAW	Cubaseでの打ち込みを中心にMIオーディオ編集から簡単なレコーディングに至るまで、Cubaseの基本的な機能を理解して自由に操作出来るように練習します。	株式会社OM FACTORY
制作実習	楽曲制作の全工程(作曲～TDまで)をCubaseで完結させる手法を学ぶ制作作業です。各自がデジタルベースでの作品制作を行いながら学んでいきます。	株式会社OM FACTORY

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	SUMMER SONIC	連携企業等:	キョードー大阪
期間:	令和5年8月17日～8月20日	対象:	教務職員4名
内容	大型音楽フェスにおける海外アーティストのパフォーマンスや演出について学ぶ		
研修名:	Neighbors Complainによるバンドセミナー	連携企業等:	Neighbors Complain
期間:	令和5年10月7日	対象:	教務職員4名
内容	海外留学経験のあるバンドによるセミナー。作曲やバンドサウンドに関してを実演含めてレクチャー。		
研修名:	クレモンティーヌ	連携企業等:	Billboard Live OSAKA
期間:	令和6年1月25日	対象:	演奏指導教員2名
内容	質の良い音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「子供たちの課題」に関するセミナー	連携企業等:	株式会社 ウェーブブリッジ
期間:	令和6年3月26日	対象:	全学科教員90名
内容	中高生の行動特性の変遷などに関する講習。		

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	SUMMER SONIC	連携企業等: キョードー大阪
期間:	令和6年8月	対象: 教務職員4名
内容	大型音楽フェスにおける海外アーティストのパフォーマンスや演出について学ぶ	
研修名:	レベル42	連携企業等: Billboard Live OSAKA
期間:	令和6年9月	対象: 演奏指導教員2名
内容	質の良い音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	Z世代の育て方講座	連携企業等: ハローライフ
期間:	令和7年3月	対象: 全学科教員90名
内容	Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見:コロナも収束しつつあるので、外国人アーティストによる特別授業を実施してはどうか

活用状況:以前と比べてタイトなスケジュールでの来日となるケースが増えているため、実施ににくい状況ではあるが、外国人アーティストのライブ鑑賞などを行事に組み込んで対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	RITA学園高等学校 副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 随時

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3)教職員	講師、特別講師
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5)様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6)学生の生活支援	※該当なし
(7)学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	※該当なし
(11)その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 ミュージシャン学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○		○		
2	○			音楽理論	音楽の基礎理論と譜面の読み方・書き方を学ぶ事により総合的な音楽知識を習得する授業です。また、音感、リズム感などのミュージシャンとして必須の能力を身につけていきます。また音楽の理論を理解する為の下準備としてコード楽器を弾く事を進行させつつ、基本的な理論を指導する。	1年 通年	60	4	○			○		○		
3	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
5	○			歌唱技術	歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。	1・2年 通年	480	16			○	○			○	
6	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	240	8			○	○			○	○
7	○			コーラス	コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	
8	○			フィジカルコントロール	ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	
9	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年 通年	60	4	○			○			○	
10	○			ソングライティング (ボーカルコース・ ミュージッククリエイターコース)	パソコンを活用、様々なジャンルの楽曲のコード理論、進行、メロディ及び歌詞の構成などを分析、研究、理解します。オリジナル楽曲の作成に対する様々なアプローチを学び、完成させていきます。	1・2年 通年	120	8		○		○			○	
11	○			演奏技術	演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年 通年	480	16			○	○			○	
12	○			楽器演奏ゼミ	各々が演奏する楽器を通してバンドアンサンブル全体を捉える感覚を身に付けていきます。自分のプレイスタイルを構築していくための実験的ゼミナール型式をとっています。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	

13	○		ソングライティング (プロミュージシャン コース)	曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。	1・2年 通年	180	12		○		○			○	
14		○	リズムゼミ	打楽器を通してリズム構成や構造を学びます。アクセントやアーティキュレーションを理解して実際の演奏にグルーブ感やダイナミクスが表現できるようにするための学習です。	1年 通年	60	4		○		○			○	
15		○	コードゼミ	鍵盤楽器を学ぶ事によりハーモニーのイメージやコード進行法を理解してもらい、リズム隊として客観的に自分の役割を考えて演奏できるようにしていきます。	1年 通年	60	4		○		○			○	
16	○		DAW	Cubaseでの打ち込みを中心にMIDI・オーディオ編集から簡単なレコーディングに至るまで、Cubaseの基本的な機能を理解して自由に操作出来るように練習します。	1・2年 通年	180	6			○	○			○	○
17	○		アレンジメント	編曲の基礎知識や技法を学習、既成曲の分析も含めメロディー・ハーモニー・リズムの構築方法を研究していく内容です。	1・2年 通年	240	16		○		○			○	
18	○		シンセサイザー	シンセサイザーを理解し、操作・音色制作を行うことを目的とします。また、デジタルであるコンピュータ上のソフトウェアシンセサイザーに対する理解も深めます。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	
19	○		制作実習	楽曲制作の全工程（作曲～TDまで）をCubaseで完結させる手法を学ぶ制作作業です。各自がデジタルベースでの作品制作を行いながら学んでいきます。	1・2年 通年	240	8			○	○			○	○
20	○		プリプロダクション	楽曲制作を実際の楽器演奏で完結させる手法を学びます。スタジオ制作での譜面作成・ミュージシャンへのディレクション手法を行っていきます。	1・2年 通年	240	8			○	○			○	
21	○		イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○			○	
22	○		業界研究	コンペ・オーディション形式での楽曲査定を行います。学生自身が他の学生から評価をもらい、制作者とリスナーの認識の差異を意識することを目的とします。	1・2年 通年	136	4			○	○			○	
合計				13 科目			76 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決 卒業要件：定する。尚、各科目の試験などの内容については、各学科長及び担任と授業担務 者が打ち合わせの上、決定する。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。